

ひとりのねがいをみんなのねがいに ひとりがみんなのために みんながひとりのために

にじのたま

編集・発行 / むぎのめ広報委員会
〒892-0877 鹿児島市吉野二丁目 38-16
TEL080-8581-3023

福祉生協むぎのめ誕生を記念して

一人ひとりの命 Peace & Love

みんなみんなフェスタが装いを新たに開催!

とき

10月13日(土) 11時〜16時
10月14日(日) 10時〜15時

ところ

かごしま県民交流センター (県政記念公園)

麦の芽のフェスタの歴史は長く、まだ無認可の時代 36年前に始まりました。障害をもつたなか
またちが参加参画し、一緒に歩き廻って協賛広告を集めた当初の「むぎのめバザール」。そのスタ
イルは、時代とともに変わってきたところもありますが、貫いて麦の芽が伝えたいこと「平和や
人権バリアフリーな社会」などをメッセージとし、2017年の「みんなみんなフェスタ」まで、
地域社会に発信し続けてきました。主催は、社会福祉法人麦の芽福祉会を支えてきた市民団体
の「協同の組織むぎのめ」です。

そして今年2018年は、「福祉生協むぎのめ」が誕生して初めてのフェスタになります。業種
を越えて協同組合や人が集まる団体につながるような集い、一人ひとりの命を尊重し、つながり
を感じられるような集いになるよう、心を込めて開催いたします。市民のみならず、たくさん
ご来場をお待ちしています。

当日ボランティアさん大募集! バザー用品承り中!



小さなぎょうぶづぶづぶの力

母の引越

40余年暮らした家の荷物整理は、母の歴史をたどる旅だった。古い日記を見つけて、ちよつと後ろめたさを感じながら目を通した。母の想い、母の喜び、母の悲しみ、母の苦悩…。娘の私が知らない母の顔が見え隠れした。

買った時のままのバッグ、飾ったことのない花瓶、亡き父の正絹帯、私の幼少期の着物、母がよく着ていたワンピース、知らなかった旅行のお土産、(きつと)秘密の手紙…。二つ二つ母の物を開いては仕分け、開いては仕分けの作業が数日続いた。

「お母さんは物を大事にする方なんです」ほら、また娘さんの思い出が出てきましたよ。荷造りを手伝ってくれた女性が感心するくらい、母の物は几帳面に保管されていた。こんなにもたくさん荷物が、いつになったらすつかり片付くのか…。私はうんざりしながら物の山を少しずつ小さくしていく。母が捨てたい物なのか捨てたくない物なのかもわからず。

大切な方からいただいた3人がけソファは、きつと捨てたら母に恨まれるだろうと思っ

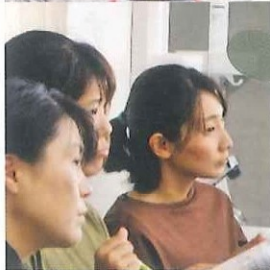
私はホームに寄付することにした。その間母は、ひと足先にホームに入居していて、どこが自分の家なのかわからない風で過ごしていた。

「母はあのソファを、自分の物だとわかっていましたか?」とスタツツに尋ねてみた。それがすねえ、全くそんな反応がないんですよ。わからないみたいで、「えーっ、マジすかあ」と私。(なーんだ、そんなものなんだと、思つと同時に、さらりと新しい生き方を始めた母の凄さにも驚かされた。

物忘れ、認知症…。忘れることは厄介なことではない。むしろ未練を残さない潔さだ。あつからかんとした母の笑顔がそう語っていた。忘れることは美德としよう。なぜなら、老人の忘れる力は、歳を重ねて獲得したものだから。意識下では忘れていても記憶は無意識となり心の奥深くに染み込んでいく。尊き、老人力かな。

物を通して母の歴史をたどる旅は、母のこれまでの人生の断捨離と受け止め、母の念願だったついでにおつとめのあるホームでの新生活の門出としたい。

(菅原裕子)



いよいよ試行錯誤が始まる！福祉生協組合員たすけあい活動『ワーカーズ』
組合員を代表して25人くらいに聞きました！
あなたの「やりたいこと」は、何ですか？

したいこと やれたらいいなあと思うこと しなければならぬと思うこと

「元気でいたい。死にたくないなあ」

「私何をすることも自信がないのよ」

「みんながしあわせになることだったらお手伝いできるかも」

「ダイエットしたい。職員のPTさんにプログラムをつくってもらって…」

「みんなで旅行したい」

「おじいちゃん、おばあちゃんの話し相手になれないかな」

「買物のお手伝い。共同購入カタログ選びのお手伝いとか」

「専業主婦になりたい。お菓子づくり」

「医療が必要ななかま、子ども、みんな通える場があればいいの」

「杖を使って歩く、ノルディックウォークで歩こう会。誰でもできずす。」

「ここで働くスタッフの子どもも、ここで過ごせる場をつくるなど、職員が安心して働ける環境をつくりたい」

「一人ひとりの自分史づくり」

「生きてきた、輝いていた時の時代をたどる、『たどり旅』をしたい」

「花、緑のある暮らし。庭園をつくりたい」

「お掃除や草刈りがたのしくなる企画」

「ホームのお部屋に尊厳を大事にする表札づくり」

「ヘルパーさんではできないこと、ヒゲ剃り、髪切り、大掃除(窓ふき、すす払い)などお手伝いします。たすけあいのお節介が大好き！」

「急に病院などに行きたいとき、車で送迎ができればいいな」

「料理教室、ホームパーティーで地域交流したい」

「ついまでおつとめのあるホームに壁画アートを描く」

「



人とのつながりづくり
私にできること みんなでできること

こんな福祉生協フェスタになったらいいなあ
こんなことやりたいなあ

たすけあい活動『ワーカーズ』は、
毎週妻の芽で集会を開いています。
誰でも何でも大歓迎です。
あなたも一緒に活動しませんか？



「むぎのめフェスタを通じて(毎年いろんな人たちと会う。つながりも増えている。つながり続けることが大事)」

「パン屋さんの仕事をしているので笑顔でパンを売る」

「人を大事にするようなモノ、施設も大事にしてほしい。今あるものでもカバーできるのではないかな。進むことも大事だけど、今あるものを生かすことも考えたい」

「話すのが苦手です。でも、まずは笑ってみる」ことから挑戦してみたい」

「大事な人と一分一秒でも過ごせるといい」

「誰でも 何でも ワーカーズ！」

※福祉生協むぎのめフェスタは10月13日(土)・14日(日)に開催します(5ページ参照)

「福祉生協むぎのめが伝えたいメッセージが届くフェスタに！」

「ミッチよんのアクリルたわしをグレードアップしたい」

「なつちゃん&なおちゃんの折り紙で、ありがとうメッセージ」

「居場所がない人の居場所があったらいいな」

「たったひとりの、やりたいこと」を叶えたい」

「ワーカーズブースをつくらべ！」

「協賛広告ありがとうございます」

「福祉生協フェスタ当日のボランティアさん大募集中！」

サービス付き高齢者住宅&看護小規模多機能型居宅介護事業

「ついまでおつとめのあるホーム」待望の開所

ゆたかのもり花棚
館長 有村 宣彦

その人らしい
暮らしを尊重して

2018年9月1日

サービス付き高齢者向け住宅と看護小規模多機能型居宅介護事業が開始となりました。

名前は「ついまでおつとめのあるホーム」。

「つい(終)」と聞けば、悲観的に聞こえるかもしれませんが、決まっています。人生の終末は誰でも訪れます。



その最後の最後まで自分らしさを全うする、それを表現した言葉が「おつとめ」になります。自分でやりたいこと、あるいはしなければならぬこと(使命)を実現できる支援を我々スタッフはさせていただきます。と考えています。

ここまでの道のりは決して順調ではありません(今もそうですが)。設計の段階から議論を重ね、役所にも足を運び、そして利用希望の皆様にも理解を求め、何とかここまでのたどり着くことが出来ました。

では、それぞれのホームはどのような特徴があるのか書かせて頂きます。まずは「サービス付き高齢者住宅 ついまでおつとめのあるホーム(以下サ高住)」からです。文字通り、住まいの提供ということになります。入居条件で

すが、60歳以上あるいは介護保険制度で要支援あるいは要介護認定を受けている等を満たしていることが必要です。当ホームでは、すべてのお部屋(15部屋)にお風呂と車いす対応のおトイレ、キッチンを完備しています。エアコンも据え付けています。

これだけの設備のあるサ高住はなかなかありません。また月額のお部屋代も、どなたでも生活に支障の出ない範囲での設定となっております。ありがたいことに現在すべてのお部屋でご入居の希望があり、新しい生活が始まっています。

安心のある生活を おくるために

そしてもう一つの事業として「看護小規模多機能型ホーム」についてご説明いたします。「また新しい

施設でしょ。」と思われるかもしれませんが、この事業は在宅生活を支えるための事業となります。ですので、ご利用者は在宅生活が基本となります。この事業は「通い」「訪問」「泊まり」を一つの事業所で行うこととなります。

「通い」とは「デイサービス」のように日中を中心にお部屋で過ごして頂きます。「訪問」は、必要に応じて介護士や看護師がご自宅やお部屋に伺います。そしてホームに「泊まる」ことも出来ます。利用者の方が必要なサービスを事業所のケアマネと相談し、自由に組み立て、在宅生活を続けて頂けます。サービスは365日年中無休のサービスが提供されることも特徴



となります。ご理解頂きたいことは、この事業所が提供できるサービス量は限界がありますので、利用者皆さんに限られた資源をシェアすることになります。したがって、お一人お一人の頑張りやご家族の協力も必要不可欠になることは付け加えさせていただきます。

まずは、ご興味にある方は見学にお越しください。地域の方々へ広報もお願いいたします。またスタッフ(介護・看護)も募集しております。新しい施設です。

皆様、是非フラットとお立ち寄りください。

(あじむり)のびるい

～物産館で働くなかまたち 編～

地域と共にある せきよしの物産館

すばる(文化事業部) 佐竹 加奈



今年7月1日、地域の方々、麦の芽のなかま、家族、職員、たくさんの人たちの願いや思いが詰め込まれた物産館が鹿児島市下田の閑吉の地に誕生しました。オープンしてから三ヶ月が過ぎましたが、毎日たくさんの方々が立ち寄り、中には一日に何度も足を運んでくださる方もいるほどです。

気がつけば、かわかみは笑顔でくらせる良いところ。と物産館内で流れているBGM(川上音頭)がなかま達の鼻歌になるほど、もうすっかり私たちの日常の中にせきよしの物産館の存在があり、物産館になかまたちがいる風景が日常になってきました。

せきよしの物産館が誕生することになったきっかけのひとつに「どんなに重い障害があっても働きたい」というなかまの願いがありました。そして今、物産館ができたことでひとつの願いを形にするこ

とができたわけです。今回は、物産館で働くなかま達のことを少しご紹介していきます。毎日、物産館では日中事業所のなかま達が交替制でお店当番をしています。仕事内容はレジでの挨拶、商品の袋詰め、周辺のゴミ拾い・清掃活動、お花の手入れなどです。

「こんにちは、いらっしやいませー」とレジに入ります。元気に挨拶、ここから仕事が始まります。物産館のユニフォームやエプロンに身を包まれ「がんばるぞー」と気持ちも引き締まります。はじめのうちは緊張もありましたが、回を重ねるごとに仕事にも慣れ、地域の方々にも顔や名前を覚えてもらったり、「今日もがんばらね」「頑張っているね」と声をかけてもらったりと、人との繋がりが働く楽しみへと変わっていく瞬間です。



お昼近くになるとお弁当を買いに多くのお客さんがやってきて、レジも一番忙しい時間ですが「バタバタするけどたくさん人に会えるから嬉しい」と春成さんは余裕の笑顔です。

くれることが嬉しい」と話してくれるようになりました。

元々接客業がしたいという思いが強かったなかまの中山さんは毎回とても綺麗にお化粧をし、おしゃれをして、お客様との交流を楽しみ「こんな私でも皆が受け入れて

は、地域の方々が作る農産物や花、お惣菜、なかま達の作品の他にもここにしかない商品なども多数並べられています。また、閑吉の自然を感じながら食べるソフトクリームも絶品です。お近くまで来た際は是非立ち寄りいただきたいですね。

なかまたちとスタッフ一同でお待ちしております。

(さたけ かな)

夢・ねがいから出発して

麦の芽が拓くゆりかごから墓場まで

なかまたちから学んだ、人としての権利・喜び・苦悩。なかまたちが拓いてくれる地域コミュニティ。なかま家族の願いが導いてくれる地域社会のあり方や生き方、暮らし方。なかまたちに向き合うスタッフの様々な葛藤、不安、あきらめ…。そしてなかまたちの、本当の願いが見えたときの安堵感。毎日が価値ある日々。

そして、今、市場競争の中で変わりゆく福祉情勢の下、福祉生協むぎのめとしての新たなスタート。移動店舗による買い物弱者支援や「地域と共にあるせきよしの物産館」ついでにおつとめのあるホーム等の新事業は、これからもほっこりとあたたかく、やさしく深く、粘り強く…。このブックレットにはそんなことがたくさん詰まっています。ぜひ、手にとって麦の芽の歴史や願いの一端にふれてみてはいかがでしょうか？(中野喜代子)

黒川久美・麦の芽福祉教育研修センター 編

毎日が価値ある日々につなげてくれる1冊

BOOK



全国障害者問題研究会出版部
定価(本体1,200円+税)

麦の芽福祉会でお買い求めいただけます。



走るコープかごしま&むぎのめ
“お届けもの”と地域からの“いただきもの”

移動店舗 「ハートとハートをつな号」

なかまの夢工房 (コープかごしま谷山店内) 亀澤 明雄



「にいちちゃん、豆腐取って、刺身は持ってきたな？」「うんまか弁当はありますか？」「甘酒が美味しかったで、今日も買わんとね。取ってくいやい」…。お馴染みになってきたお客さんとの会話が弾みます。

移動店舗「ハートとハートをつな号」は、生鮮食品やデザート、食品を中心に、「みんなの夢工房」のパン、「ふたごのき」の切り花など、生協コープ谷山店に並んでいる商品を移動販売車に積んで、買物を待っているお客さんの所へお届けしています。五ヶ別府、春山、吹上などの遠隔地から、松元、上伊集院、錦江台の団地、そして、

特にお年寄りの要望にお応えして鹿児島市内の老人ホームデイケア、市営住宅などにもお届けするようになりました。

もちろん、麦の芽の事業所にも足を運びます。吉野温泉、麦の芽本部(あゆみ)、ゆめのまち・みんなの二番館、ワープロプラザの芽、ついまでおつとめのあるホーム…。今日も来てくれた、アイス、パンをください、「自分のお小遣いで買いたい」と、障害をもつなかま、高齢者のみなさんとのコミュニケーションも楽しいです。まさに、ハートがつながっていると感じる場面です。このように「ハートとハートをつな号」が、買物を待っている

るお客さんの所へお届けするのは、地元のみなさんとのふれあいも楽しく、やりがいのある仕事です。そして、それにも増して、もっと素晴らしいと感じることがあります。お届けに行った地域の人たちに出会うこと、地元の自然や風土に触れることです。

四季折々の表情を見せる草花、豊かな土壌で育つ作物、人と共に生きる牛や鶏、悠然と羽ばたく鳥ゆつくりと流れる空気…。その土地で育まれた宝の自然と風土と人のぬくもりをたくさんいただいていると実感するのです。

「ハートとハートをつな号」は、買物という「お届けもの」と人と人と地域とのふれあいを通じて、「いただきもの」を、今日もどっこり持ち帰ってきます。この「いただきもの」を移動店舗スタッフだけの宝にするのはもったいないので、写真、便りなど、「にじのたま」紙面でもご紹介していきたいと思えます。移動店舗が訪れた各地からの「いただきもの」をみなさんに観ていただき、感じていただきながら、もっと大きな、ゆたかなハートにつながっていきなさいです。

(かめぞわ あきお)

であった人 ふれあった風土 みつけた風景

鹿児島市五ヶ別府町福永集落からの **い** **た** **だ** **き** **も** **の**



ひとむぎ先生がゆく

「アジは青ものですか？」
と訊いてきたお客さん

〜移動店舗のお医者さんの巻〜



ひとむぎ診療所準備室
医師 齋藤 裕

ひとむぎ診療所
"人と歳"一つの歳が
成長していくことは
誰かにも同じ
とあはれを

吉野温泉前に
12月1日開所します

わたしたちの いのち 暮らしに
ぐんと身近な
診療所と訪問看護ステーション

ここは診療所だからいいな...
診療結果をわかりやすく説明
して下さったら、話しやすい
質問しやすいのかな... (手紙で済む)

おはよう、
花巻さん、おはようとおはな...

ひとむぎ診療所図

初めに移動販売の話があったのは2年くらい前で、中村専務理事との話しの中でした。移動販売が稼働したら、医療班として乗り、お客さんの医療・健康相談にのり、地域の人たちと交流、「コミュニケーション」に役立てればいいですね。などと話しは盛り上がりました。

私の故郷である島根県益田市の中の村には、食料雑貨店が1軒あり、その店は約50年前から移動店舗を続けていたが、店主の高齢化等で2年前に終了しました。故郷の移動販売のことがあり、いつか移動店舗に参加したいと思ってい

ました。今年から麦の芽福祉社会の移動店舗「ハートとハートをつなご」が開始され、私は週1回、今は水曜日に五ヶ別府、春山、吹上地区を巡回しています。店舗を手伝いながら、お客さんの健康相談、医療相談、血圧測定などをして

います。血圧測定が始まったきっかけは、B地区のAさんから「血圧は測らないの？」との一言があり、翌週から血圧計を持参し、希望者には血圧を測っています。血圧が高い人には家でも定期的に測ること、食事療法の指導などもしています。

Aさんに血圧を測ったら「(血圧測定の)料金はいくら？」と訊かれ、「もちろん無料ですよ」と返事しました。血圧測定は毎週希望される人もいれば、測りたくない人と拒否される人もいます。

C地区のDさんは「ここで乳がん検診はできるの？」との質問があり丁寧に断りせざるを得ませんでした。F地区のGさんからは「私はアレルギーがあり魚の青ものがダメですが、(商品の)アジは青ものですか？」と質問があり答に迷いましたが、「一応アジは青ものなのでダメですね」と返事をし、家に帰ってから調べ、アジは青ものであることを確認しました。

お客さんは高齢者の方が多く、整形外科的疾患が多いです。皆さんすでに

近くの医療機関にかかっているようです。今後健康相談、医療相談をしながらお客さんとの交流を図ってゆきます。

(さいつう ゆたか)

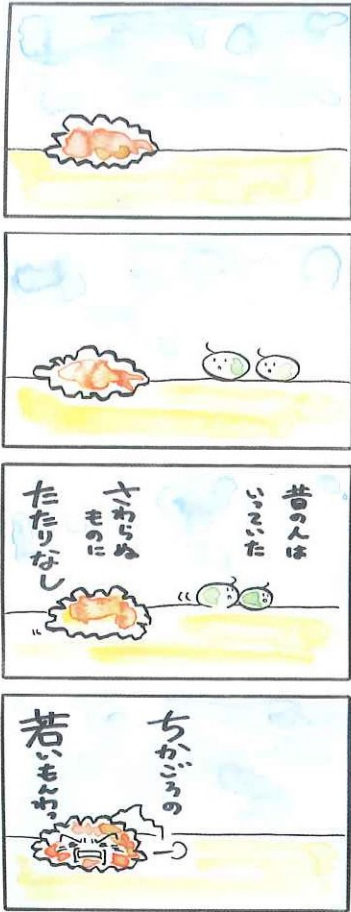


お知らせ

あなたも福祉生協の
組合員になりませんか？

生協をご利用いただくには、加入し、組合員になっていただきます。生協は組合員が手を取りあって、自らの願いをかなえる自主的な組織です。そのため、みんなが組合員になり、出資金を持ち寄って利用・運用していただきます。詳細は生協ごとに異なりますので、ぜひ一度にご相談いただき、加入をご検討ください。

まみちゃんの4コマ、「教訓」



私はアーティブラスト②

有木 藤勲さん

「ありき ふじおさん」
緑内障により視界が半分以上見えなくなりました。何でも挑戦してみたい!と、とてもポジティブ。なぜ?

Q 陶芸を始めるきっかけは何でしたか?
A 目が見えづいくなってもできることがないかなあ?と、思ってみつけたのが陶芸です。暇つぶしであったり、遊びであったり。
でもね、やるからにはもつと上手になりたいなあと思うのですよね。

24がから 能登 謙三

わかりにくいアプローチ②



鹿兒島の街角には、人を迷わせる場所がたくさんあります。
例えば、かごしま水族館前(桜島棧橋)バス停から水族館へ向かうとき、多くの人は戸惑うのではないのでしょうか。水族館の建物は向こうに見えているのに、どっちへ歩き出せばいいものかと。
水族館の方へまっすぐ歩いて行けるルートがないのです。
行政が考えた水族館までの「順路」は、まずバス停から少しバックして桜島フェリーターミナルビルの2階へ上がり、そこから改めて水族館へ向かうというもの。何と遠回り、アップダウンがあること、足が不自由な人や高齢者に酷です。
バス停から水族館へ文字通りまっすぐ向かうにも、フェリーから降りてきた車が通り抜ける道を一本、まっすぐ横切らねばなりません。しかし危険ですから、横断できないよう道端に柵が設けてあり、もちろん横断歩道もありません。
この最初の「横切り」が、初めての人には何ともわかりにくいのです。バス通路ですから、危険でもあります。以上の2カ所に共通するのは、アプローチの構造に問題があること。また、的確な案内標識が不備なことです。
もし行くことがありましたら、このへんに着目して現場をチェックしてみてください。
(のせ けんぞう / ボランティアまち案内人)

考えてみれば、かごしま水族館は鹿兒島の売りのはず。そこへ向かうアプローチがわかりにくく、利用しにくいのは、致命的ではないでしょうか。
同じような場所は他にもあります。城山バス停もそうです。ここでバスを降りて展望台へ向かうとき、多くの人は「はて」と首をかしげるはずです。どっちへ歩き出せばいいかと。
「順路」は、バス停のある歩道からバス駐車場の出入り口を横切つて、みやげ物店が並ぶ通路を少しずつつつていくというもの。